

メディアセンター中期計画 2012-2015

1. 「紙と電子」による利用環境の構築

教育・研究・医療を支える「紙と電子」の適正な蔵書構築および確実な利用環境とサービスの提供

(1) 「紙と電子」によるコレクション構築方針の見直し

電子資源にかかるコストの増大、来館型から非来館型へのサービスの比重の変化に見合った、紙媒体資料の収集保存基準および電子資源の契約・購入方針を確立し、その基準・方針に沿ったコレクション構築を図る。

(2) 「ディスカバリー」の充実

求める資料・情報への確実なアクセスを保証するべく KOSMOS を中心とした統合検索の機能向上（対象データの拡大、目録整備の継続等）を図る。特にナビゲーション機能の改良を行うことでディスカバリーサービスの充実を図り、資料・情報の可視化を進める。

(3) 電子ブックのサービス確立と和書の電子化への貢献

利用のしやすさ、予算、業務効率を踏まえた体系的な収集方針の下で、電子ブックのサービスを確立し、利用促進を図る。一方で、国内出版物の電子化に向けた活動に積極的に関与する。

(4) 学術情報発信の強化

知の発信と保存を目的として、学内の学術的資産を電子的な形態で収集・蓄積し、国内外の誰もがアクセスし利用できるようにする。

2. 「個性の尊重」と「協調」との両立

キャンパスの多様性およびメディアセンター全体としての協調を意識したサービス・運用の最適化

(1) キャンパスのニーズに合致したサービスのさらなる推進

利用者、キャンパスの多様性に合致したサービス展開（サービス体制、コレクション構築、場の活性化等）を推し進める。

(2) メディアセンター全体を意識した業務の推進

各メディアセンターの独立性を尊重する一方で、よりわかりやすいサービスへの改善、事務効率の向上のために、メディアセンター全体として協調しサービス・業務の標準化、合理化を徹底する。

(3) 紙媒体資料の保存基準の確立と大規模保存書庫計画の実施に向けた活動

紙媒体資料の保存基準も含めた学術情報のアーカイブの方針を策定し、学内のリソースシェアリングを強化する。その方針を基に、書庫狭隘化への抜本的な対策として大規模保存書庫計画を推進する。

(4) 魅力的な空間、サービスの提供

非来館型サービスの拡大を進める一方で、知の創造空間を提供すべく、館内の施設改善や新たなサービス展開等キャンパスのニーズに応じた環境の一層の整備を推進する。

3. 環境変化に対応できる運営体制の確立

図書館経営の強化および人と組織の再編成

(1) 経営体制の強化

一貫性、継続性のある経営体制を確立し、環境変化への迅速な対応を可能にするための経営改革を図る。そのための調査・分析機能を備えた体制も整え、自立した財源確保にも努める。

(2) 図書館職員に求められる資質の明確化とそれを活かすための育成

図書館業務における専門性、キャリアモデルを確立し、組織目標に沿う計画性をもった職員の育成、確保を行う。

(3) 環境変化に応じた人員配置の見直しおよびサービスの質の保証と向上

レファレンス、ILL等で利用件数が減っている状況を受けて、研究・学習支援に適したカウンターサービスおよび人員配置の見直しを行う。また、業務委託体制下でのサービスの質の確保を図る。

(4) 電子資源管理体制の強化に向けた経営資源配分の見直し

運営コストを見直すことで電子資源の管理・運営体制を強化し、非来館型利用の動向に適したサービス体制を整える。

4. 学内外における幅広い貢献

教育・研究・医療活動に則した支援と学内外における知の生産と応用への貢献

(1) 学内における教員・他部署との連携の強化

学習・研究支援における学内連携を通じて、「学問による貢献」を積極的に支援する。

(2) 学外他機関との連携強化と社会貢献

国内外の人的ネットワークを活用するとともに新たに構築する。また、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動等、図書館界の変化に積極的に関与し、社会貢献に努める。

(3) 国際連携の推進

OCLC Research Library Partnership への参画、海外の大学図書館との職員交換研修の拡充などの国際連携を通して、相互の活性化に寄与する。

以上